

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス				開設学科		環境園芸学科／食品開発科学科		
科目名称	地域キャリアデザインⅠ（総合知）						授業形態		講義	
科目コード	161005	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	植村 秀人								ICT活 用	○
授業概要	・授業の概要 宮崎県内、県外にて総合知的な実践をしている教員によるオムニバス講義。オンデマンド受講。道徳的思考の横串：毎回、「何のための総合知なのか」の目線で、倫理・道徳・社会的観点（利他性、公正、説明責任、持続可能性、情報倫理など）を盛り込む。 ・授業の目的 道徳的思考に支えられた総合知で、地域から世界の課題を俯瞰・構想し、関係者と協働して解決を実装できる「未来共創人材」の素地を育成する。道徳・倫理的視点・持続可能性を必須基盤とし、行為の妥当性（何が善いか）と成果の有効性（何が効くか）で考える姿勢を身につける。宮崎の重点分野（農林水産・医療・教育・観光・DX/AI・脱炭素・防災等）に、人間学（徳育）・倫理を重ねて扱う。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	moodleを使ったオンデマンド講義。									
授業計画 【第1回】	ガイダンス、総合知と徳育の融合 山口 和宣（宮崎大学 学び・学生支援機構 総合知教育企画部門 副部門長/特別准教授）									
授業計画 【第2回】	ファシリテーション 佐藤宏樹（宮崎大学 学び・学生支援機構 総合知教育企画部門 特別講師）									
授業計画 【第3回】	看護と人材教育予習・復習(3時間) 久保 敦子（宮崎県看護協会 会長・元宮崎大学病院 看護部長／元理事補佐）									
授業計画 【第4回】	観光とビジネス 杉山 智行（宮崎大学地域資源創成学部教授学び・学生支援機構 総合知教育企画部門 部門長）									
授業計画 【第5回】	ジェンダーギャップ解消と産業振興の融合 富山 幸子（宮崎県男女共同参画センター 所長）									
授業計画 【第6回】	地域政策と多文化共生 本田 利弘（宮崎県議会議員 外国人材確保・雇用対策特別委員会委員長）									
授業計画 【第7回】	“伝承”の確からしさを科学するー健康長寿を目指してー 伊達 紫（宮崎大学 教授 理事補佐）									
授業計画 【第8回】	研究戦略と地域共創 福重 秀文（宮崎大学URA特別教授）									
授業計画 【第9回】	社会インフラと環境材料 中野 敦（宮崎大学 地域資源創成学部 准教授）									
授業計画 【第10回】	I C Tを用いた言語文化コミュニケーション 伊藤 健一（宮崎大学国際連携機構・国際連携センター 准教授）									

授業計画 【第11回】	研究者への道 水光 正仁（宮崎大学名誉教授、元宮崎大学理事）
授業計画 【第12回】	歴史と観光-安井息軒の読書余適- 青山 大介（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）
授業計画 【第13回】	現代を生き抜くためのアート思考 石川千佳子（放送大学宮崎学習センター 所長宮崎大学名誉教授、元宮崎大学副学長）
授業計画 【第14回】	異文化理解 マーク・ウォーターフィールド（宮崎国際大学 准教授）
授業計画 【第15回】	ランドスケープと観光 -岩切章太郎の功績- 関西 剛康（学校法人南九州学園 常務理事 環境園芸学科 教授）
授業の到達目標	1. 複数の分野融合経験、事例を学び、自分の将来像に照らして異分野の接点を理解し自身のキャリア形成の礎とする。 2. 宮崎（地域）や大学生生活に関わる身近な課題から、「総合知」と「利他の心」にもとづき説明できる。 俯瞰力・構想力 分野横断的および長期的な視点から地域社会を俯瞰し、デザイン思考によって地域社会が目指すべきイノベティブな未来像を構想することができる能力
学位授与の方針 (DP)との関連	3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	1時間
授業時間外学習【復習】	2時間
課題に対する フィードバック	備考参照
評価方法・基準	レポート及び授業参画毎回の小レポートの取り組み、授業参加態度、発言、質問 30% 目標1及び2 小テスト毎回、web上に小テストを実施 30% 目標1及び2 最終レポート講義内にて提示、レポートの内容で評価する。40% 目標1及び2
テキスト	
参考書	
備考	連携開設科目。SPARC科目。 オンラインの講義となることもあり、講義にはパソコン持参。 なお、出席不正が分かった場合は欠席扱いとして、その分追加課題を出します。 受講者多数の場合は、開修登録者を対象として抽選により、受講人数の制限を行う